緑の風

MIDORI NO KAZE

9月号
vol.244
2020年8月28日

●編集
NPO法人
多摩住民自治研究所
日野市神明3-10-5
エスプリ日野103　〒191-0016
TEL：042-586-7651
FAX：042-514-8096
E-mail●tamajitiken1972@space.ocn.ne.jp
URL●http://www.tamaken.org/

梅雨明けし、とたんの熱射、日々天をにらむ。2020年8月25日（撮影：編集部）

●【シリーズ多摩が動く】
一般質問削除への経緯――「質問する権利」を考える　砂山洋一（東村山革新懇事務局長）
●【タマの風 vol.87】
「死者についての思い出を託す」神子島 健（東京工科大学准教授）
● 書籍紹介
『明日のための近代史――世界史と日本史が織りなす史実』（『緑の風』編集部）
● dataTAMA vol.46
「多摩地域30市町村の2020年7月～9月開催平和イベント」（『緑の風』編集部）

緑の風 MIDORI NO KAZE

もくじ 2020 9月号 Vol.244

タマの風 vol.87
「死者についての思い出を託す」　神子島 健　1

シリーズ 多摩は動く
一般質問削除への経緯―「質問する権利」を考える
砂山 洋一　4

書籍の紹介
「明日のための近代史　世界史と日本史が織りなす史実」
『緑の風』編集部　松川 遥　6

dataTAMA vol.46
「多摩地域30市町村の
2020年7月～9月開催平和イベント」
『緑の風』編集部　8

7月の活動ほか　14

タマの風

死者についての思い出を託す

神子島 健
（かごしま・たけし）

vol.87

吾輩の友達である弥生ちゃん、前回出てきたように三匹の子ネコを出産したところであった。その後、吾輩はこの夏の暑さで外出が減って、ノラネコの弥生ちゃんのところに遊びに行く機会があまりなかったのだにゃ。

8月半ばのお盆の時期、半月ぶりくらいで弥生ちゃんのところを訪れた。チー子も一緒である。

「あら、チー姉ちゃん、タマちゃんも。しばらくねえ」。少し向こうから子ネコの声がするので、近場で遊んでいるのだろう、弥生ちゃん一匹で迎えてくれた。とはいえ、なんだか様子がおかしい気がするので、チー子と吾輩は顔を見合わせるにゃ。

しばし沈黙になり、ヤヨがボソッと話し始める。「昔の日本人は、幼名ってのを持ってたんだってねえ。子どもが小さいうちに本当の名前を持っていると、その名を呼ばれると命を奪われてしまう。だから元服してから正式な名前をつけたって」（※諸説あります）

「なんや、いきなり。難しい話か？　タマちゃんの世界やな」。吾輩はすぐにピンときた。「もしかして大変なことがあったかにゃ～？」とヤヨに聞いてみる。

「大変なことなのかなあ。きっとあたしたちネコにとっては、子どもが小さいうちに死んじゃうなんて当然のことなんだよ。くよくよしても仕方ないよ」と、表情はいつも通りだが声が落ち込んでいる。

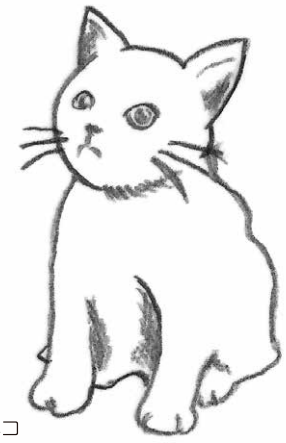
「えー、なんやて！」チー子の表情が凍りつく。「メーちゃんがね」メーちゃんというのは、三匹いた子ネコのうちの一匹である。「夕立の後、あの子だけ風邪みたいになって、息がうまくできなくなって、そのまま…」とヤヨはチー子にしなだれかかって涙を流す。

「ああ、つらかったなあ。全然知らんかった、ゴメンな」とチー子も涙を流す。

ノラネコはそもそも2、3年で死んでしまうことが多く、とりわけ子ネコの命はきわめてもろいのである。

「なんかね、人間て、家族が死ぬとお墓をつくったり、位牌だったり、写真なんかを置いたりして、そこに話しかけたりするっていうじゃない。あれって最初はネコからすると不思議だったんだよね」「うん、そう？」

「子どもを失った母親には、自分の中に失った子どもの思い出が張り詰めるように詰まっているんだから、あんなモノいらないじゃないって」「そうか」


子ネコ

「でもきっとそうじゃないんだね」「うん、うん」とにかくチー子は聞き役に徹している。こういう時オスの吾輩は黙って突っ立っているだけである。

「いっつもその子のことばかり考えちゃうから、頭がおかしくなっちゃうでしょ。だから写真（遺影）とかを置いて、それを亡くなった子だと思って語りかけるわけね。ええと、だから、その子のことを思うのは語りかける時だけにするのよ。ほかの時は思い出さないようにしてるんだわ、きっと」「そうか。そうやろな。にしてもヤヨ、そんなことよう知ってんねんやな？」

「コロちゃん（連れ合い）が前にタマちゃんから、日本人の死生観の話を聞いたんだって」「相変わらずけったいな話しよるなあ。コロちゃんは小さい頃から頭でっかちなタマちゃんの影響受けすぎたんや。ネコの風上にも置けん」「吾輩はただ墓や遺影の話をしただけで、こんな発展的な話まではしていニャい」「なんや発展的って」

という話をしている間に、子ネコの声が近づいてきた。「ママー」と元気な二匹が、パパのコロちゃんと一緒に戻ってきた。「ふみもシロも、おかえり」弥生ちゃんは二匹をペロペロ舐める。清潔さを保つためである。「どうも、いらしてたんですね」とコロちゃん。

子ネコという生き物はちっこくて目がクリクリしていて、同じネコといっても大人の吾々とはまるで別の存在である。そんな子ネコがコミカルな動きなどした日には、ネコ好きの前ジムキョクチョーでなくてもその愛らしさに悶絶してしまうにゃ。

「ええと…」ふみと呼ばれたメスの子がチー子を見ている。「チー子バアバ、こんにちは」「あらまあ、この子ったら、バアバなんて」「まあしゃあないな。ウチからしたら孫みたいなもんや」。バアバと呼ばれてさみし気な感じもするが、子ネコの可愛さの前にはどうでもいいらしい。チー子の方がよく来ているので覚えているようだが、生まれてすぐに数回来ただけの吾輩のことはわからないらしい。

コロちゃんが言う。「ふみちゃん、この方がタマさんだよ」と言うと「えーっ！」と目を輝かせて「タマちゃん、タマちゃん」と吾輩に近づいてきてシッポをバタバタさせる。白猫ではないがシロと呼ばれた、人見知りならぬネコ見知りのオスの子も、おずおずと少し近づいてくる。

「なんだ。コロちゃんは吾輩の噂話をしているのかにゃ？」「噂話ということはありません。タマさんに教わった話を色々伝えようとしているのですが、難しくてまだわからないようです」

チー子と弥生は眼を見合わせて笑い出す。「まだ一か月ちょっとのこの子らにタマちゃんの難しい話がわかるかいな」「そういうものですかね？」コロちゃんは初めて会った子ネコの頃（第39回）と変わらぬ丁寧な口調で答える。

「難しくても伝えなければいけない話があるのです」「ハイ

ハイ」「私はタマさんとチー子さんに会うまで、薄々気づいていたけど、はっきりとは理解していませんでした」「なんやろ？」「突然きょうだいの一匹であるメーちゃんがいなくなったこと、つまり亡くなったことは、わかるようになるまで伝えなければなりません」

「あ！」

「生き残った者の使命だと思うんです。ボクはきょうだいの中で唯一の生き残りで、母の死も見届けたものの、タマさんに会うまでそのことの意味はよくわかっていませんでした」

「そらあんた小さかったからしゃあないわ」「そうかもしれません。でも、この子たちがメーちゃんの死を理解するまで伝えなければなりません」

「そうか。だからさっきの話になるんだよね」とヤヨが言う。「さっきの話って？」「墓や遺影の話」「死者の思い出の「外化」ですね」とコロちゃんが言う。「ガイカってなんやの？」「生物にとって、普通、死はこの世での形を失っていくものです。人間の場合は、墓や遺影のように形のあるものとして残すことで、生き残った者が死者の記憶を託す装置を作っているわけです。内面にある思い出や記憶を外界のモノに表わす。とりあえずここでは「外化」と呼んでおきました」

「人間はとりあえずそういうことをしているけど、ネコにはそれはできないからね」とヤヨが、話の内容はよくわかっていないシロをなでながら言う。

「もっとも、そのような装置を作ることは、亡くなった方を直接知らない子孫に、つまり祖先のことを伝えることにもなります。まあ、親族が祖先の冥福を祈ることはいいんですが、本来全然関係のなかった人にまで、いうなれば故人と無関係に形式上「悼む」ようなことも起こったりするんでしょうね」とコロちゃん。

「難しくてようわからん」「言ってみれば悲しみでなく墓が先にあって悼むことを外側から要請されるような話だにゃ」「やっぱりわからん～」

「国家が戦死した軍人や軍属を特別に扱ってその戦没を祈念するようなことだにゃ。実際の所、政府は一人ひとりの悲しみに向き合うために戦没者を祈念するわけではニャいし、故人一人ひとりを知っているわけではないから、原理的にそんなことはできニャい。肉親の死と向き合う家族の思いとは別のはずなのだが、しかし特別に扱われることを受け入れることによって、家族は戦死を国家の大義と結び付けて考えていくのだにゃ」「ふーん」

「もっとも、日本で言えば靖国神社と関係するこの話は以前したことだにゃ」「え、そんな話した？　思い出せへん」「そりゃそうだにゃ。吾輩の夢の中での話だにゃ」「なんやそれ！　知るか」「でも読者は読めるのだにゃ（第48、49回）。さて、もう少し、個別の死と向き合う遺族について、考えてみようにゃ～」

（続く）

コロナの影響で、今年はお盆の帰省も少なかったということだにゃ。

シリーズ 多摩が動く

一般質問削除への経緯――「質問する権利」を考える

砂山 洋一（すなやま よういち）
（東村山革新懇事務局長）

一　力関係が大きく変わった東村山市の市議会勢力

二〇一九年四月に実施された東村山市議会議員選挙以降、会派構成は

① 自由民主党市議団が八人
② 公明党が六人
③ 日本共産党が五人
④ つなごう！立憲・ネットが三人
⑤ 草の根市民クラブが一人
⑥ 国民民主党が一人
⑦ 立憲民主党が一人

となり、議長に自由民主党市議団の議員が就任しました。これまでは、市長を事実上支える自民党・公明党とそれ以外の議員構成は同数で拮抗していましたが大きく変わりました。

東村山市議会は、新型コロナウイルス感染症問題を理由に三月議会の一般質問の議論は具体化しませんでした。市議会事務局は、市民には「各市議がどのような質問を提起したのかは知ることができない扱いとなっている」と説明しています。質問を記録として残さない扱いも市民には疑問が残ります。

さて、六月議会では五月二八日を「一般質問提出締め切り」とし、それぞれの市議が質問書を提出しました。しかし、「三月議会あてに『新型コロナ感染症対策の強化を求める陳情書』が提出されている経過」がその後の問題の契機となります。

二　一般質問削除が行われ初日の議場に「白紙」状態の資料配布

東村山市議会では、「一般質問」について、提出されている「請願・陳情」との関連で質問ができないとする「議会　会議規則」が二〇〇七年一月九日に議会運営委員会で採択されています。

当初は提出の少なさもあり、「請願」のみとされていましたが、二〇一四年には「陳情」も追加され、適用範囲が拡大された経緯があります。

この問題について、「新型コロナウイルス対策問題」を一般質問として通告して、質問のほとんどが削除された日本共産党の新人議員は、地域の後援会ニュースに次のように触れています。その要点は、

「質問項目の削除を決めたのは、議会運営協議会です。議会運営協議会は一二名の市議で構成され、市民に非公開で、議事録もなく、内容をもらすことも禁止された秘密会議です。ブラックボックスを規則で認めていることも問題です」

と基本的な問題点を提起しています。

議会事務局は、「議会運営委員会」ではなく「議会運営協議会」が一般質問のそろった時点で、実際の「削除作業」をおこなっていることを認めています。具体的には、

① 「組織規定」はありません。

② 「議事録」は作成していません。
③ 実際の削除作業は、「運営協議会の合議」でやっています。
④ 「質問削除の根拠」は、長年の申し送りのマニュアルを守っている。
と回答しています。

二〇二〇年六月五日付けのしんぶん赤旗は、茨城県取手市議会が六月八日開催の市議会で、日本共産党の「コロナ質問認めず」としている問題を報じています。理由は、保守派の「コロナ対策は毎週一回会派代表者会議で議論しているから」とされ、共産党市委員長の「議員の一般質問を制限することは地方自治法に違反する」と批判したと記事は構成されています。

この問題については、全国市議会議長会担当者が「一般的に議員の質問について禁止する根拠はない。個々の議会での申し合わせは紳士協定にすぎず、質問は議員の根本的権利で強制的にやめさせることはできない」とコメントしています。この視点に立って考えれば、問題の所在は明らかです。選挙で当選した市議会議員の「質問する権利は保障されねばならない」ことは明白です。

三　おわりに

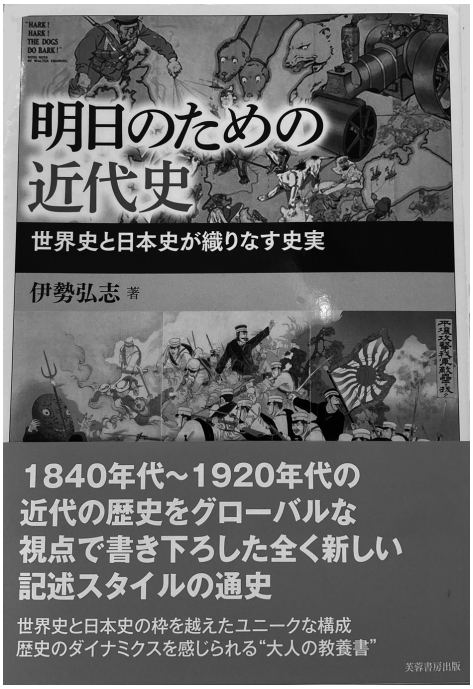
「東村山市議会基本条例」は、「議会及び議員の活動原則」の項で
① 市民に開かれた議会運営を行うこと。
② 市民の代表として、市民の声を把握すること。
③ 市政運営を監視及び評価すること。
④ 活発な議論及び政策提案に努めること。
⑤ 不断の改革を行うこと。
としています。逐条解説では、「より良い市政の実現を目指し、市議会は民主主義に根差した運営がなされなくてはなりません。」と明記しています。

市議会自身が、市民に説明できない「闇組織」で、形だけ「合議」を装い、自ら決めている「民主的運営」にそむく実態は、議会人の退廃を痛烈に示しています。その点では、隠蔽・改竄・破棄に痛痒を感じない今日の安倍政権と同じ体質を感じます。市議会を構成するみなさんの「改革への努力」を強く要望しているところです。

東村山市議会基本条例（逐条解説入り）より抜粋

第２章 議会及び議員の活動原則
（議会の活動原則）
第２条 議会は、次の各号に掲げる原則に基づき活動する。
（１）市民に開かれた議会運営を行うこと。
（２）市民の代表として、市民の声を把握すること。
（３）市政運営を監視及び評価すること。
（４）活発な議論及び政策提案に努めること。
（５）不断の改革を行うこと。

【解説】
地方自治における二元代表の一つである市議会が、どのような原則に基づいて運営されるべきか、その活動原則を規定しています。
より良い市政の実現を目指し、市議会は民主主義に根差した運営がなされなくてはなりません。第１号では、市民にとって身近でわかりやすい運営が行われるべきこと、第２号では、多様な市民の声が意見集約される場となるべきことを明記しています。また、地方自治の根幹である二元代表制の意義を踏まえ、第３号では、議会は議決機関として条例の制定及び改正・廃止、予算の議決、決算の認定等、市長等の市政運営を監視し評価する権限を持っています。そして、市民にとって極めて重要な決定を行う責任から、第４号において、活発な議論と積極的な政策提案を行うべきこととしています。第５号として、これらの目的を達成するために必要な改革を議会自らが常に行うべきことを規定しています。



『明日のための近代史
世界史と日本史が織りなす史実』

伊勢 弘志　著　　芙蓉書房出版
2020年6月　　2,200円+税

多摩研でも販売中です！
ご希望の方は事務局までご連絡を

なぜ歴史を学ぶのか

この問いは本書の冒頭に書かれた章題であり、本書のタイトルにある未来のために過去である歴史に思いを馳せる重要性を表しています。「一九一四年　第一次世界大戦開始」といったような、年表上に書かれた表層的な現象からは当時その社会がどのような価値観や目的の元で判断を行ったか知る事はできず、歴史の当事者の視点を考察しなければ、結果から逆算したような誤った因果関係を見出してしまうかもしれません。

明日のために歴史を学ぶからには、過去の当事者たちが先の見えない〝現在〟の中で、どのように決断を下したかを学ぶことで、過去からの英知と教訓を正しく学ぶ必要があります。

また、本書は二〇二二年から高校の授業に導入される新科目である「歴史総合」についても触れています。世界史と日本史の近現代史を合わせて総合的に学ぶ科目であり、限られた時間の中で奮闘する事になる教育現場に資するものになれば…と書かれています。

近代とは

本書のタイトルにもある「近代」という時代区分について、さまざまな見方や分析がありますが、本書では「近代」を「帝国主義が世界を覆った時代」と定義しています。つまり本書で解説する「近代」は、帝国主義の世界観の広がりと、その世界観が変容し、新たな秩序が広まる「現代」へ到達するまでを意味します。

日本の視点から見た「近代」の始まりとして、国交の限られた鎖国体制だった日本が開国を経て列強の国々との国交を開き渡り合うためには、まず列強の国々に認められる「文明国」にならなければ、そもそも対等に扱われる事はありませんでした。それを覆すべく近代化の進路をとりますが、そこには列強の国々による弱肉強食の帝国主義が広がっています。

本書ではその中でも、アジアの覇権を巡る英露の「グレイト・ゲーム」に翻弄される東アジア情勢について詳しく書い

ており、大国の干渉により不利益を負った国が他の国に対してそれを取り戻すかのように力を背景にした干渉を行います。

第一次世界大戦と国際秩序の転換

こうした帝国主義外交によって作られる軍事同盟の連鎖によって、第一次世界大戦は誰も予測できなかった惨劇に突入します。このような大戦を経た国際社会は、帝国主義の限界を感じ、秩序の転換を目指します。

こうして人類史上初の「国際連盟」が発足しますが、そこには同時に矛盾もあり、後に人類は再び世界大戦に突入します。

しかし、ここで注目するのは戦争に突入するという事象ではなく、一九二八年のパリ不戦条約のような、さまざまな手段で国家間の争いを戦争以外の方法で解決するべく努力を重ねる世界的取り組みにあります。そのような取り組みによる、平和・人道を普遍的価値とする「現代」への時代の転換こそが、人類が積み重ねた成長であるとして、本書は一旦の幕を閉じます。

おわりに

さて、本書を紹介する中で過去を考える時に現在の視点と過去の決断を切り分ける事について書きましたが、それに反して現在、そして未来を考える際には過去を切り分ける事は決してできないと、本書を読む中で強く感じました。それぞれの国家がそれぞれの得られる情報と価値観の元に決断を下し、その国家の中にはまたそれぞれの考えを持った市民が一人一人存在していて、それらが繋がって現在を構成しているならば、自分を構成する歴史と相手を構成する歴史を知る事は、考えを通じ合わせるコミュニケーションの第一歩ではないでしょうか。

（『緑の風』編集部　松川 遥）

多摩研事務局にて特価販売中

書籍普及の一助になれればと思い、
多摩研事務局にて、本書籍の販売を実施いたします。

本体価格：2,200円＋税のところ

大特価：2,000円＋送料100円の
計2,100円での販売です

・お名前
・住所　郵便番号
・電話番号
・希望冊数
を明記の上、多摩研事務局までご連絡ください。
電話・メール・FAXにて申し込みを承ります。

NPO法人　多摩住民自治研究所
Tel：042-586-7651
Fax：042-514-8096
E-mail：tamajitiken1972@space.ocn.ne.jp